

世の中のことすべてが、自分中心に回ることができたなら、どんなに自由で楽しいかもしれません。でも本当にそうでしょうか。

私の父は日本人。母は、フィリピンとスペイン人のハーフです。母は、日本に来て一九年にもなりますが、難しい日本語の壁にぶち当たり、今でも「言った」の小さな「つ」や「一緒」の小さな「よ」などとまどつていて、今なお、日本の言葉や文化・風習の違いに立ち向かっています。私は日本で生まれ育ったのですが、この私も、母が育った母国の価値観との違いに挟まれています。

私の家庭では、理由もなく「ダメ」と言われることがたくさんあります。高校に入るまでは、髪の毛をショートにすることはダメだと言われ、小学一年生からずっとロングにしています。髪を切りたいと母に伝えても「ダメ」。その一言だけで何も答えてはくれません。中学生になって「どうして？」と聞いてみましたが、「ダメなものダメ。もう言わせないで。」と言うだけです。反抗期にもなり、苛立つ私と時々けんかになることもありましたが、母の国では、子どもは絶対に親に服従しなければいけないのです。

また、個人が家族よりも優先される国です。自分のことよりも、まず相手のことを大事に考えるのです。この考え方は日本人が思う以上に強い結束が感じられます。目上を敬い大切にします。親は子どもを大切に育てる。やがて、年老いたら今度は若い人たちが年配者を大切にすることです。何度も母の母国に行ったことがあります。親への絶対服従と家族を大切にすることには、本当にびつくりするほどでした。母にしみ込んでいる母国の価値観は素晴らしいですが、日本に育った私には少し窮屈な気もします。母の母国フィリピンの食事は、片方の膝を立てて手でつかんで食べます。毎年のようにフィリピンに行つて食べますが、この食べ方には今でも抵抗があります。

この価値観の違いは、それぞれの国によって違ってきましたから、どれが正しいか正しくないかの答えはないと思います。例えば、日本は鯨を捕つて食べますが、それを野蛮な行為で絶対にダメだという国もあるのです。戦争に賛成の国もあれば、反対の国もあります。外出の時、女性の顔を絶対に出さない国。女性は車の免許を絶対に取つてはならない国。小学生でも全く教育を受けさせない国。実際、いろいろな考えや気候・風土の違いがあるように、国の価値観の違いは当然あってもおかしくありません。神楽が好き、クラシックが好きとか、ブランド品にお金をかけるかけないとか。私たちは、ちよつとした価値観の違いから、他愛もない喧嘩をしたり、人生の別れにまで発展したりしていくのだと思うのです。

問題は、価値観が違うもの同士、どうすればうまくやっていけるかということです。私は、私のことを大切に思ってくれる母が大好きです。家族がいちばんだと思ってくれる母に心から感謝しています。母を尊敬し、母をこれからも認め理解して仲良くしていきたいと思っています。価値観は違つても、お互いを受け入れることが大事だと思うからです。母は、日本の価値観に戸惑いながらも、一生懸命に頑張っています。日本で納得のいかないこともたくさんあつたでしょう。それでも受け入れて暮らしているように、私も譲り合いながらお互いが歩み寄つていかなければいけないと思うようになりました。

母は、難しい会話や言葉はやはり今でも少し無理ですが、毎日漢字の勉強をしながら、今日も片言な日本語で明るく前向きに、日本の文化に合わせて生きています。父も事故で、右腕の肩から先が全く不自由ですが元気で強く、異国で育つた母を理解して、優しく見守つてくれます。

高校生になって特に感じていることがあります。それは、日本は治安がいいことです。マニラ空港やセブ島などでは、窃盗や麻薬の取引が頻繁にあります。また、進路を考える今、日本は義務教育ですが、フィリピンでは小学校にも行かせてもらえない家庭があり、経済的に貧し

い人たちが多いということです。

私の体の中に、少し控えめではありますが、相手を思いやることができる日本の血と、親や家族をすぐく大切にするフィリピンの血と、あふれるばかりのやる気が強いスペインの血が流れていることを、私は誇りに思っています。将来は、建築の道に進みたいと思っています。私の母国である、三つの国のいいところを取り入れ、柔軟な心で生きていきたいと、心からそう思います。